

# なでしこリーグ全体の底上げと女子サッカーの普及活動に注力

一般社団法人日本女子サッカーリーグ専務理事 田口 禎則氏

本誌 サッカー日本女子代表、なでしこジャパンが二〇一一年の女子ワールドカップで優勝、空前の女子サッカーブームになっていますね。

田口 日本サッカー協会は女子サッカーに特化した、なでしこvisionを二〇〇七年に発表し、二〇一五年までに女子プレーヤーを二〇万人にする、才能の発掘と育成のシステムの強化、二〇一五年女子ワールドカップでの優勝を三天目標に掲げ、二〇〇八年の北京オリンピックでは四位となっていました。また、二〇一一年大会で優勝するとは驚きでした。

このなでしこジャパンの活躍は日本女子サッカーリーグ、なでしこリーグにも好影響を及ぼし、二〇一一年シーズン後半は観客が一人を超え、試合も続出しました。また、スポンサー契約についてもワールドカップ後、三井住友カードとトヨタ自動車がおフィシャルスポンサーに決定したほか数社との交渉も行っています。ただ、今後もなでしこリーグを継続して応援してもらうためにはリーグ全体の底上げが必要で、選手の資質やプレーの質を上げていくとともに各チームの競技力の差を縮め

ていかなければならないと考えています。

## 二〇一二年チャレンジリーグは全国リーグに

本誌 日本女子サッカーリーグもなでしこリーグの愛称で定着してきましたね。

田口 日本サッカー協会では女子サッカーの発展に向け、二〇〇四年に日本女子代表の愛称を募集、なでしこジャパンに決定しました。このため、日本女子サッカーリーグも同途中からそれまでの愛称であるL・リーグとなでしこリーグを併用し、二〇〇六年からなでしこリーグのみを愛称に使用していましたが、日本女子サッカーリーグが発展していかなければ、なでしこジャパンのさらなる飛躍はないと改革を行い、二〇一〇年には、なでしこリーグと呼ぶことができる一〇チームと、二部に相当する東西に分かれたチャレンジリーグに再編しました。

本誌 二〇一一年は東日本大震災の影響が大きかったですね。

田口 東日本大震災による東京電力福島第一原発事故の影響で東電女子サッカー部・マリーゼが休部した

ため、同部を除く浦和レッドダイヤモンズ・レディース(埼玉県さいたま市)、ASエルフェン狭山FC(埼玉県狭山市)、ジェフユナイテッド市原・千葉レディース(千葉県千葉市・市原市)、日テレ・ベレーザ(東京都稲城市)、アルビレックス新潟レディース(新潟県新潟市・北蒲原郡聖籠町)、伊賀フットボールクラブくノ一(三重県伊賀市)、INAC神戸レオネッサ(兵庫県神戸市)、岡山湯郷Belle(岡山県美作市)、福岡J・アンクラス(福岡県春日市)の九チームでリーグ戦を行い、二〇〇七年に始まった、なでしこリーグカップ戦も中止しました。

本誌 二〇一二年はチャレンジリーグが全国リーグになります。

田口 現在、東西各六チームに分かれているチャレンジリーグを二〇一二年シーズンから一二チームによる全国リーグにし、二回戦総当たりになります。もともと全国リーグが前提だったので、交通費の負担が大きいなどの理由で東西に分けていました。サッカーくじの収益による助成金の増額が見込まれることや加盟チームなどから全国リーグではないとスポンサーが得にくいという意



**田口禎則 (たぐち・よしのり) 氏**  
 1965年9月埼玉県生まれ。1989年・筑波大学体育専門学群卒業。同年・全日本空輸入社、全日空サッカークラブ(横浜フリューゲルスの前身)に加入。1993年・サンフレッチェ広島に移籍。1994年・浦和レッドダイヤモンズに移籍。2000年・浦和市議会議員。2001年・さいたまレイナスFC監督。2002年・日本サッカー協会女子委員。2004年・埼玉県議会議員。同年・日本女子サッカーリーグ総務主事。2006年・同専務理事に就任。

## ロンドン五輪出場 の日本代表に配慮

見が多かったことから一リーグに統合することを決めました。また、二〇二二年のなでしこリーグにはチャレンジリーグからスペランツァFC高槻(大阪府高槻市)が昇格し、一〇チームによる二回戦総当たりのリーグ戦とカップ戦を実施します。

本誌 なでしこジャパンはロンドン・オリンピックへの出場も決めましたね。

田口 二〇二二年のなでしこリーグはロンドン・オリンピックに出場

する日本代表に配慮し、四月に開幕

して一月上旬に閉幕、オリンピック期間中は中断します。リーグ戦はオリンピック前に前半九試合、オリンピック後に後半九試合を行い、カップ戦もオリンピック前後にまたがって実施します。そのほか、オリンピック以外でもなでしこジャパンの活動に配慮した日程を組みます。また、海外チームを招いて、なでしこジャパンと試合を行うことも計画しています。

本誌 リーグ加盟チームはJリーグ傘下のクラブチーム、企業チーム、市民クラブ、学校などさまざまです、

ほとんどアマチュアですね。

田口 一九八九年に誕生した日本女子サッカーリーグは一九九四年にL・リーグを愛称に採用しましたが、その頃はほとんどのチームが専用のグラウンドを持ち、プロ契約選手も登場していました。しかし、その後のバブル経済の崩壊による企業チームの相次ぐ解散などからクラブチームが多くなり、グラウンドの確保もできない状況でした。ただ、選手には男子サッカーのJリーグがスタートした時のような気概、熱意があり、私も女子サッカーの発展に何か手伝いをしなければと思い、さいたまレ

イナスFC(現・浦和レッドダイヤモンズ・レディース)の監督を引き受けました。その時、選手には仕事をしながらサッカーをやり、頑張っている姿を見れば、プロの選手よりも選手ひとりひとりの価値はあがると言っていました。が、今まさにそうした状況になり、職場でも選手は高い評価を受けています。また、東電マリーゼの選手をベガルタ仙台が受け入れたように、Jリーグのチームが女子チームを持つ動きも加速しています。

本誌 新スポンサーの獲得によりチームがない地域でのリーグ戦の開催や女子サッカーの普及活動に力を入れる方針ですね。

田口 現在、日本サッカー協会の登録者数は約八〇万人ですが、そのうち女子は僅か四万人弱です。そのうち女子は僅か四万人弱です。そのうちの子供の時から女子も継続してサッカーができる環境を整えたいと思っています。とくに、中学体育連盟に女子サッカー部がなく、この時期に他のスポーツに流れることが多い。そのため、サッカー協会からの指導者派遣などにより中学でも女子がサッカーを続けられる手だてを考えています。